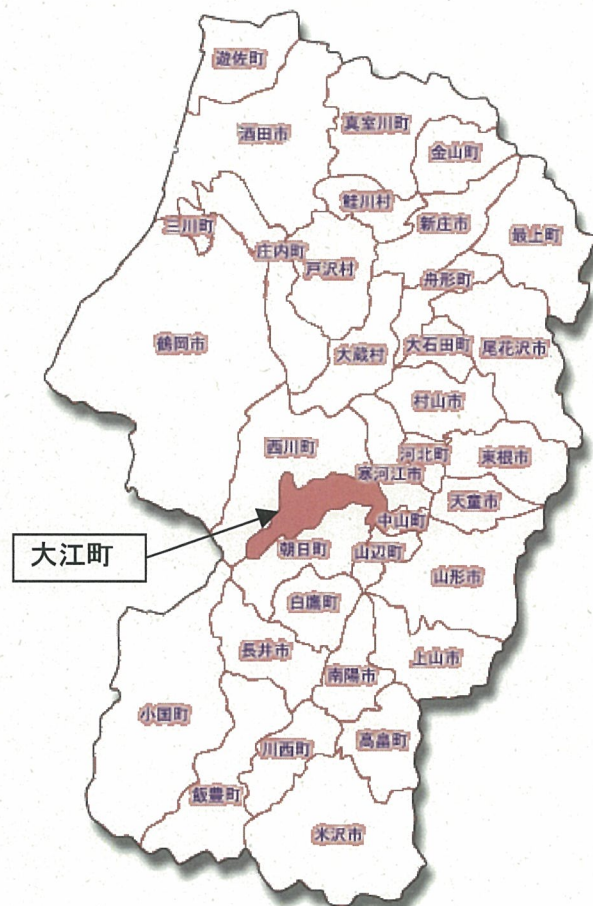


1 大江町の概況と水道事業の沿革

1.1 大江町の概況

本町は、昭和34年に左沢町と漆川村の合併により誕生し、東端に位置する左沢は古くから水郷の町として知られ、最上川が内陸と庄内を結ぶ主要な交通手段であった当時、舟運航路の中継地として栄えた歴史を持っています。

位置は山形県のほぼ中央部、村山平野の西部に位置し、朝日山系より源を發した月布川(つきぬのがわ)沿いに東西24km、南北16kmと東西に細長く伸びた地形となっています。西側には、朝日山系の高峰大朝日岳(1,870m)、小朝日岳(1,648m)などの高山群に囲まれ、起伏の激しい山岳地帯です。東側には、標高が下がり集落が散在し、樹園地、田、畑などの耕地が存在します。東端の最上川と月布川との合流点に、中心市街地となる左沢(あてらざわ)があります。



大江町の位置

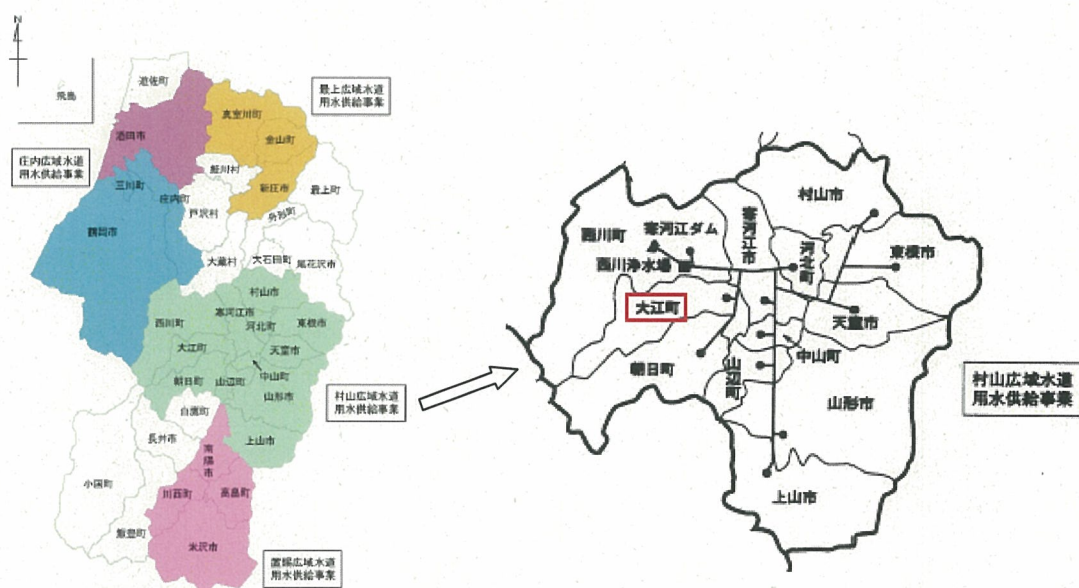
1.2 水道事業の沿革

本町は、現在、上水道事業1ヶ所、簡易水道事業2ヶ所、飲料水供給施設2ヶ所の計5ヶ所の運営を行っています。

(1) 上水道事業

上水道事業は、昭和37年に月布川(伏流水)を水源とし、一日最大給水量2,600m³/日の経営認可を受け給水を開始し、昭和59年から村山広域水道用水供給事業より全面受水をする事になり現在に至っています。

事業名	認可年次	目標年次	給水人口	1日最大給水量	1人1日最大給水量	総事業費
創設	昭和37年	昭和47年	8,000人	2,600m ³ /日	325L/人・日	109,891千円
第1次拡張	昭和47年	昭和55年	8,000人	3,600m ³ /日	450L/人・日	195,722千円
沈殿地築造	昭和51年	昭和61年	8,000人	3,600m ³ /日	450L/人・日	34,000千円
第2次拡張	昭和57年	昭和67年	8,490人	3,990m ³ /日	470L/人・日	273,363千円



村山広域水道用水供給事業の概要

(2) 西部簡易水道事業

西部簡易水道事業は、昭和52年に柳川地内の月布川右岸側に長畑水源(伏流水)を求め、一日最大給水量560m³/日の創設認可を受け給水を開始し、平成9年に変更認可を受け柳川地内に柳川浄水場(膜ろ過)を建設し現在に至っています。

事業名	認可年次	目標年次	給水人口	1日最大給水量	1人1日最大給水量	総事業費
創設	昭和52年	昭和62年	2,800人	560m ³ /日	200L/人・日	800,000千円
拡張	昭和58年	昭和68年	2,350人	730m ³ /日	311L/人・日	129,200千円
拡張変更	平成9年	平成19年	1,700人	730m ³ /日	429L/人・日	352,800千円

(3) 用簡易水道事業

用簡易水道は本町の南東に位置し、昭和47年に湧水を水源とし経営認可を受け、昭和48年に給水を開始し、その後認可変更はなく現在に至っています。

事業名	認可年次	目標年次	給水人口	1日最大給水量	1人1日最大給水量	総事業費
創設	昭和46年	昭和57年	160人	24m ³ /日	200L/人・日	7,900千円

(4) 黒森飲料水供給施設

黒森飲料水供給施設は、西部簡水貫見地区より北方に約1km離れたところに位置し、昭和56年に湧水を水源とし経営認可を受け翌年に給水を開始し、その後認可変更はなく現在に至っています。

事業名	認可年次	目標年次	給水人口	1日最大給水量	1人1日最大給水量	総事業費
創設	昭和56年	昭和65年	55人	11m ³ /日	200L/人・日	千円

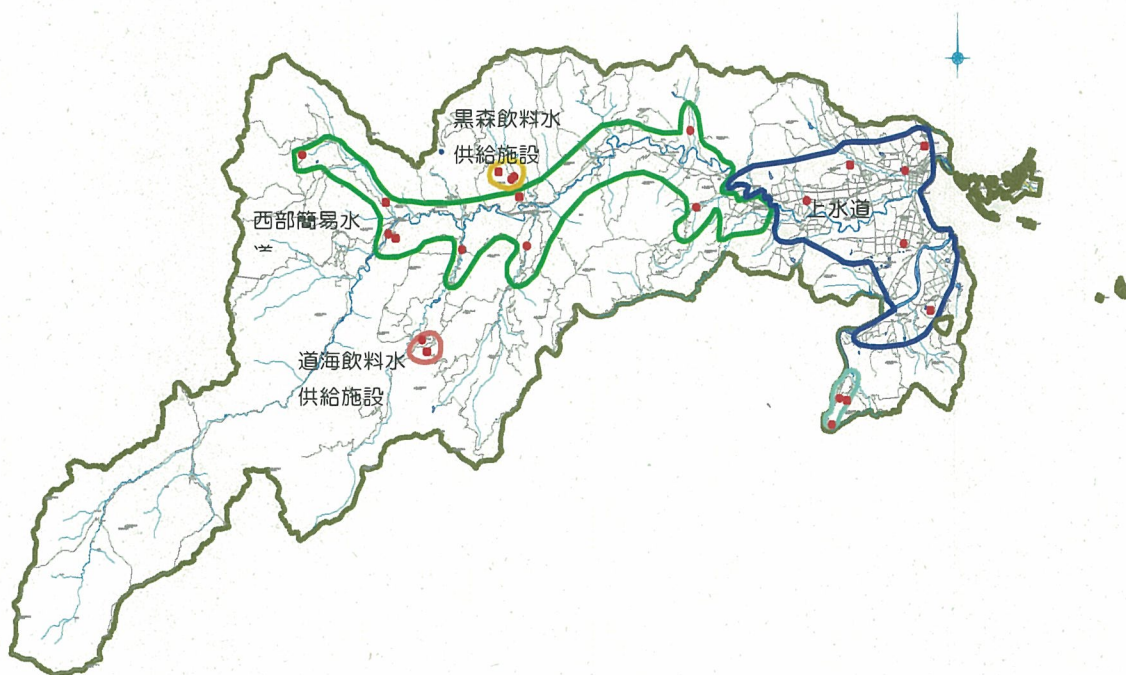
(5) 道海飲料供給施設

道海飲料水供給施設は、西部簡水中沢口地区より南方に約2km離れたところに位置し、昭和53年に湧水を水源とし経営認可を受け翌年に給水を開始し、その後認可変更はなく現在に至っています。

事業名	認可年次	目標年次	給水人口	1日最大給水量	1人1日最大給水量	総事業費
創設	昭和53年	昭和64年	98人	19.6m ³ /日	200L/人・日	48,631千円

大江町水道事業の給水区域は、行政区域東部の左沢区域を中心とし、月布川、県道大江－西川線沿いに西部地域まで広がっています。

町の南西部は、小朝日岳や伏辺山といった標高1,000m越える山々が連なり、未給水地区となっています。また、寒河江市内に位置する飛地(木の沢地区)は、寒河江市水道給水エリアです。



大江町水道事業の給水区域